
みのらない

汐梨

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

みのらない

【コード】

N4063L

【作者名】

汐梨

【あらすじ】

目の前が真っ暗になるってこいついうことだったんだ

黒くて長いロングヘアが好き。可愛いよりも綺麗な子が好き。運動しないような肌の白い子が好き。指が綺麗な子が好き。大人しい子が好き。守ってあげたくなるような子が好き。化粧は薄い子が好き。話が合う子が好き。いつも笑っていてくれるような子が好き。料理が上手な子が好き。まっすぐな子が好き。音楽が好きなのは気があう。ゴツゴツしたアクセサリーとかピアス開けてる子は苦手。よく他人に目を配っていてくれるような子が好き。つぶっている子は可愛くない。声が高い子が好き。映画好きな子は好き。面倒見いい子が好き。いつも傍にいてくれる子は、本当に好き。

(目の前が真っ暗になるって、こっぴつことだったんだ)

2人が私に気づいていないことが、唯一の幸이었다んだと思う。

音を立てずに教室前の廊下から立ち去る。

(わたしのこと、好きって言うてくれてたのになあ)

茶髪に染めていた髪も戻して、つけまつげを卒業。入りたかった軽音部も諦めて、週1の調理部に入部。友達に呆れられても日焼け止めは欠かせなかった。いつ遊びに誘われてもいいようにバイトしてお金貯めて。あいつに料理上手いねって言われてから、毎日お弁当作った。友達にラブラブだねって羨ましがられて、あいつの友達には良い女って褒められた。

あいつだって、わたしのこと自慢できる彼女だって、いつ嫁にいつてもいいねって。

(あんたがわたしをもらってくれるんじゃないかなかったんだ)

でもごめん

本当は全部知ってた

あなたの目線はいつもあのことだったこと

知ってた

あのことはあなたのこと、好きだったこと

あなたは優しすぎたこと

あのことは性格いいこと

あなたはわたしを振れなかったこと

あのことは、わたしとは正反対だったこと

あなたは悩んでたこと

初恋は、みのらないってこと。

(後書き)

悲恋書きたくなったら、こんな出来上がりました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4063/>

みのらない

2011年1月19日02時25分発行